

表1. 「やさしい日本語」にするコツ

- ① 一文を短くし、語尾を明瞭にして文章を区切る（です、ますで終える）  
「～なので、〇〇しようかと…」⇒「～です。〇〇します。」
- ② 尊敬語・謙譲語は避けて、丁寧語を用いる  
「いかがなさいましたか」⇒「どうしましたか」  
「後ほど受付までお越しいただきます」⇒「後で受付に来ます」
- ③ 漢語よりも和語を使う  
「採血します」⇒「血を採ります」  
「頭痛もしますか」⇒「頭も痛いですか」
- ④ 擬音語・擬態語は使わない  
「血液サラサラにする薬」⇒「血が固まらないようにする薬」  
「チクチクする痛み」⇒「針で刺されるような痛み」
- ⑤ 単語の始めに「お」をつけない  
「おくすり」⇒「くすり」
- ⑥ カタカナの外来語を使わない  
「このシートにご記入ください」⇒「この紙に書きます」
- ⑦ 相手の知っている言葉を探して言い換える  
「大きい方」⇒「便」⇒「うんこ」⇒「うんち」

表2. より伝わりやすくするコミュニケーション

- ① まずは「日本語を話しますか？」という声かけから
- ② 結論を最初に言う
- ③ 要点を絞って話す
- ④ 相手の表情をよく見て理解度を確認する
- ⑤ 漢字文化圏の方には漢字で書く
- ⑥ 相手の言葉を繰り返して待つ
- ⑦ どう理解したかを話してもらう
- ⑧ 紙に書いて渡す
- ⑨ 説明の際には実物を見せたりネットの画像検索を活用
- ⑩ コミュニケーション支援ボードの活用
- ⑪ 多言語問診票の利用
- ⑫ 多言語翻訳アプリの活用

cf) 尊敬語、謙譲語、丁寧語の区別はわかりますか？

- どうぞ召し上がってください・・・尊敬語
- 私もいただきます・・・・・・・・・・謙譲語
- どうぞ食べてください・・・・・・・・丁寧語
- 私も食べます・・・・・・・・・・丁寧語
- 食べて、食べろ、食べな・・・・・・・・普通語
- 食べる・・・・・・・・・・普通語